

## 大会時・コロナ禍での取組

- ・ 関連会社の東京2020大会による混雑への事前準備をきっかけに取組の検討を開始
- ・ 2019年4月：SCM部門が発足。BCP策定に向けた検討を開始
- ・ 2021年6月：第22回物流環境大賞「特別賞」を受賞
- ・ 2021年7月：「東京オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の物流に係るご協力をお願い」を文書として発出

### 人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- テレワーク**・・・実施率約2割（受注センターは約1割程度）BCP対応の一環として全員に会社用と在宅用のPCを支給
- オフピーク通勤**・・・フレックスタイム制を導入
- 会議等のオンライン化**・・・社内外ともにオンライン会議。工場も立入り禁止に
- 手続きの電子化**・・・FAXをデータ化。請求書や納品書等はPDF化しメール送付（原本が必要なものは後日郵送）

### 物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- 顧客に対し「物流に係るご協力をお願い」を文書で発出**

#### 【主な依頼事項】

- ・ 納品時間の緩和（大会時は時間指定の受付を一時的に中止。終日の納品受入れの協力を依頼）
- ・ ドライバーの拘束時間の削減（付帯作業の辞退）
- ・ 1回当たりの納品数量をまとめることで、多量小頻度納品の依頼
- ・ 大会期間中の納品を避け、事前納品への協力依頼
- ・ 新規の納品先の制限
- 他社との連携による「三角輸送」を実施**
  - ・ 他社からの提案により三社連携での往路帰路の相互輸送を実施

### 取組ポイント

- **在宅でもアクセスできる受注システムに変更**
- **派遣社員含む全社員にテレワークデバイスを貸与**
- **過去の経験値を活かし早めの対応を検討**

### 取組ポイント

- **自社から顧客向けのお願いを文書で発出**
- **主力商品は約1週間分多めに生産し安全在庫を確保**
- **東京2020大会を契機に「付帯作業の見直し」等を試行**

## 今後の取組

### 人の流れ

**継続して取組を実施予定**  
(2021年12月現在のヒアリング結果)

### □ テレワーク

BCP対応運用として受注センターの半分程度は継続していくことを検討中

※受注センターの分割配置は継続の予定だが、コロナ収束に伴い、2022年4月から元に戻すことを検討中

### □ 書類等の電子化

### 物の流れ

### □ 物流量の調整

### □ リードタイムの緩和

### □ 検品の簡素化

### □ その他物流の効率化

### □ 取引先や協力企業などサプライチェーンで連携した取組「三角輸送」の継続

## 【東京2020大会を振り返って】

- ・ 会議がオンライン化したのが、発表会や講演会には適している一方で、フリートークで活発に議論するような会議ではうまく活用できない等のデメリットがある。
- ・ 物流部門では、全員が100%テレワークすることは難しいということが改めて確認できた。
- ・ 大会期間中を含めて、感染症対策が必要であった。仮に感染症により物流センターのメンバーが勤務できなくなると、100%の配送能力が確保できなくなる。このため、バックアップ体制としてグループを3つに分けて対応したが、コスト面からもバックアップ対策が取りにくいいため、人員確保は大きな課題である。